

平成23年1月31日

日清製粉グループ 第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第3四半期は売上高3,197億円、経常利益227億54百万円。

[平成23年3月期第3四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 村上 一平）の平成23年3月期第3四半期連結累計期間につきましては、政府の景気対策効果もあり個人消費に一部回復の傾向が見られたものの、食品業界は、デフレの影響を受け厳しい市場環境が継続しました。そのような環境下、主力事業の食品事業において当社技術を活かした付加価値のある新製品を開発・販売し、広告宣伝活動を積極的に実施するなど、各事業において売上げ拡大施策を推進するとともに、一方では、各事業においてコスト削減にも取り組みました。そのような中、昨年4月に輸入小麦の政府売渡価格が平均で5%引き下げられたことに伴い、5月に製品価格改定を実施いたしました。さらに、昨年10月に輸入小麦の政府売渡価格が平均1%引き上げられたことを受け、本年1月に製品価格改定を実施いたしております。また、昨年10月より、輸入小麦について、輸入後直ちに製粉企業に販売する即時販売方式が導入されました。

なお、当社は連結子会社である、オリエンタル酵母工業㈱及び㈱NBCメッシュテックにつきまして、当社グループ全体として効率的且つ最適なグループ経営を実践し、長期的な企業価値の更なる向上を図るため、当社の100%子会社とすることを目的として、公開買付けを実施し、その後の会社法に基づく一連の手続きにより、両社の議決権の全てを取得いたしました。

この結果、第3四半期連結累計期間の業績は、製粉事業及び食品事業において出荷伸長はあったものの、輸入小麦の政府売渡価格引き下げによる製品価格改定の影響もあり、売上高は3,197億円（前年同期比93.6%）となり、利益面では、ふすま価格の低迷及び拡販施策費用等の投入があり、営業利益205億55百万円（前年同期比95.8%）、経常利益227億54百万円（前年同期比95.4%）、四半期純利益126億68百万円（前年同期比88.6%）となりました。

[平成23年3月期通期連結業績予想]

国内景気は海外経済の改善等を背景に今後持ち直すことが期待されますが、厳しい雇用情勢及び消費者の低価格志向は継続するものと予想され、当社グループを取巻く環境も、当面、不透明な状況が継続する見込みであります。当社グループは各事業におきまして引き続き広告宣伝を含め販売促進活動を積極的に推進し、出荷拡大に努めてまいります。当社はナショナルブランドメーカーとして、独自性があり、お客様の要望に応えた新製品を開発・販売することにより、需要創造・市場拡大に努めてまいります。また、当社グループの継続的な成長を可能にするよう、国内及び海外において事業基盤強化のために必要な施策を推進してまいります。

その結果、平成23年3月期の連結業績予想につきましては、10月公表の予想通り、売上高は4,250億円（前期比95.8%）、営業利益は246億円（前期比92.6%）、経常利益は271億円（前期比92.4%）、当期純利益は145億円（前期比86.1%）としております。

なお、製粉事業におきましては、昨年11月に規模が小さく生産コストが割高となっていた北見工場を閉鎖いたしました。これに続いて、福岡市の須崎埠頭に平成26年春に新工場を建設し、同時に鳥栖、筑後の両工場を閉鎖することを決定いたしました。最適な立地への生産集約による生産性向上を実現してまいります。

以 上